

式 辞

まちわびた桜の開花と、心地よい春風に包まれて、本日関係各位多数ご臨席の下、ここに羽衣国際大学、平成三十一年度入学式を、挙行できますことは本学にとって大きな喜びであります。

とりわけ年度初めのご多用の中、本学の入学式にご臨席賜りました、多数のご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

また新入生の保護者やご家族の皆さまにおかれましては、ご子息が大学入学という晴れの日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

ただ今、1年次現代社会学部193名、人間生活学部127名、3年次編入学、現代社会学部3名、人間生活学部6名、合計329名の入学を許可致しました。羽衣国際大学の教職員を代表して、皆さんの入学を心より歓迎致します。ご入学おめでとうございます。

本学羽衣国際大学は、1923年(大正12年)に島村育人先生らによって設立された、羽衣高等女学校を起源とする大学であります。戦後、羽衣高等女学校は羽衣学園中学校・高等学校となり、また1964年(昭和39年)に羽衣学園短期大学が設立され、南大阪泉州地域の女子教育を担って参りました。本学は2002年に羽衣学園短期大学を一部改組転換して、男女共学の四年制大学として設置されました。現在は現代社会学部2学科、人間生活学部2学科、計2学部4学科を擁する大学となっています。

羽衣学園の建学の精神は、愛真教育に基づく「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」であります。創立者である島村育人先生は第一期の入学生に次の言葉を贈られました。「あなたが本校に在学なされることは本校の名誉であります」。私もまずこの言葉を新入生の皆さま

んに贈りたいと思います。

さて、皆さんもマスコミ報道等でご存知のことかと思いますが、昨年度は近年にない厳しい大学入試となりました。特に私立大学は入学定員の厳格化という政策の下で、各大学が合格者を絞り込み、結果的に多くの不合格者を出すこととなりました。本学も年明けの入学試験において多くの志望者の期待に応えることができず、大学を運営する者として申し訳なく思うところがあります。中には本来の希望ではない大学・学部に進学したり、さらには進路変更を余儀なくされた高校生、受験生も少なくないものと思います。皆さんは本学での学修を志望され、入学を決めた人達がほとんどとは思いますが、中には必ずしも思った通りの進学ではない、という人もいるかもしれません。

そこで、新入生の皆さんに覚えておいてほしい言葉があります。それは「セレンディピテイ」という言葉です。

現在のスリランカが以前「セイロン」と呼ばれていた時代に、セイロンの王子が探したものが見つからないのに、全く予期しないものを見つけるという寓話をもとにして生まれた言葉です。外山滋比古さんの著書「思考の整理学」でも紹介されているので知っている人も多いと思います。一般に「セレンディピテイ」とは、直接に探していたものではなく、思いがけない発見をする能力や、思いがけない幸運そのものを意味します。自然科学の研究ではよく語られる言葉ですが、社会一般、さらには人生全般にも当てはまる言葉ではないかと思います。

一つの例を挙げてみましょう。

皆さんも、江戸時代の末期から明治時代にかけて、英語等の専門家として活躍したジョン万次郎こと中濱万次郎のことは知っている

と思います。その波乱に満ちた生涯は、英語の教科書やミュージカルにもとりあげられているので、ご存知の方も多いでしょう。

1827年、四国土佐今の高知で漁師の次男として生まれた万次郎は、14歳のとき漁の途中、嵐に遭い遭難してしまいます。現在は鳥島と呼ばれる無人島で4名の仲間たちと143日間、わずかな食糧と雨水で飢えをしのぎ、何とか生き延びます。そして幸いにも、偶然この島に立ち寄ったアメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号によって救助されます。当時の日本は鎖国していたため、外国船が直接日本に立ち入ることはできず、しかたなくハワイ・ホノルルに向かいます。

ホノルルで仲間の4人は日本へ帰国するため下船しますが、万次郎だけはアメリカ本土へ渡ることを希望し、1841年アメリカ東海岸のフェアヘブンに到着します。以後アメリカで英語はもちろん、数学や測量、航海術、造船技術などを学び優秀な成績で学業を終え、さらにアメリカでの生活を続けます。その後1852年にふたたび日本土佐に帰国した後、万次郎にとって大きな活躍の場が訪れます。1853年、ペリー提督率いる、いわゆる黒船が来航します。幕府はその対応に追われますが、英語や造船技術にたけた万次郎は幕府に招請され、以降日米の条約交渉において通訳などの重要な役割を果たすこととなります。英語はもちろん、アメリカと日本の両方の文化に通じた万次郎は、まさに両国の架け橋になった人物と言えるでしょう。

さてこのような、漁の途中の遭難、無人島への漂着、そこでの生死をかけた日々、そして慣れない異国アメリカでの生活など、万次郎自身が土佐を出発するときには予め計画し希望したことなど何ひとつありません。全てが偶然であったと言えるのですが、万次郎はそう

した自分が予期しない境遇にくじけることなく、積極的に人生を切り開いて行きました。そしてまさにそうした姿勢によって、その後の活躍と幸運をつかんだと言えるのではないのでしょうか。

特に無人島から救助された後で、ホノルルに滞在した際、他の4人がそこに残り、万次郎だけがアメリカ本土にわたることを決意しました。私はここに万次郎の人生への積極的な姿勢をみる事ができると思います。

大学入学にあたり、これからの学生生活においては、新入生の皆さんの、思い通りになることばかりではありません。むしろ自分が予期しないような厳しい現実直面することの方が多いと思います。その時に、ただ自分の境遇を嘆いたり、周りのせいにするような後ろ向きの姿勢ではなく、万次郎がアメリカ本土にわたったように、前進しながら前向きに積極的に問題を解決する、という姿勢をもってほしいと思います。そうすることによって、自分も思いもしなかったようなチャンスが生まれまた成功もある、ということを知っておいてほしいのです。そのために是非「セレンディピティ」という言葉を覚えておいてください。

本学は専門の9つのコースと一つの専門課程があり、比較的多くの学びの領域を設定しています。また海外研修の機会も数多く用意しています。過去には海外研修に参加した学生が卒業後現地で就職し、人生の伴侶を見つけ、現地で生活を続けるような例もありました。このようなことから、本学は「セレンディピティ」の可能性に満ちた大学ではないかと思えます。

新しい元号「令和」も決まりました。皆さんは記念すべき「令和」の最初の入学生になります。新しい時代は皆さんの時代です。そして皆さんには日本に留まらず、世界で活躍する人材になること

を期待しています。本学で修得した専門的な知識やスキルを心の羽に変えて、アジアの大陸を飛び回り、太平洋の大海原を渡って、世界で活躍するための準備をしてください。

羽衣の羽は「飛躍の羽」、「成長の羽」、そして「挑戦の羽」であることを願っています。本学入学が皆さんの人生をより豊かにし、大きな成長へと結びつくことを祈って、入学式の式辞といたします。

平成31年4月2日

羽衣国際大学学長 吉村宗隆